

点つなぎパズルの点はそれ 자체では何の意味も為さないが、点と点を結ぶこと持つ。文字だってたった一つでは無力だが、集まつて文章になることで

一つ人間もマクロ視点で見れば夥しい数の細胞でしかないし、

一個は些細で取るに足りない存在もたくさん

することができる。ミク

も再帰的に

宇宙の

たくさん

集まり

る。その中で

物はいつでも、

予め定められた

を遂行するため

れど、彼らの運

とひたすら進み続

宇宙の終わりまで、

の輝きのために

た観客席から観ている。

対岸の花火を眺めている。ああ、残念。花火たちはちゃんと生きていて、存在しているというのに！

あなたは眺めている、自分は特等席にいると勘違いしながら、

命は決して変わらな

けるのだから。もちろんこの本に描かれている

『花火様はどこから見てもいい。』という物語の

永遠に散る、儚い線香花火。閉ざされた宇宙で孤立し光を

前に敷かれたレールから外れることなく、終着駅へ

二十四人の子羊たちも例外ではない。彼女たちは

短い一幕を演じている。観測されるただその一瞬

放つ恒星。読者であるあなたはスクリーンを隔て

遠く離れた安全な場所から対岸の火事——いや、

一緒にステージに上がって、ホンモノと一緒に劇を演じたほうが面白いのに。だから、あなたをこの素敵なかな舞台に招待することにした。だつて、

興味ない観客も。ボタンを押してくれた観客も、押せなかつた観客も、この本を読んでいなくても、全

す。あなたは、点であり、文字であり、細胞であり、電気部品である。素粒子＝花火として宇宙＝花火を

「全愉悦世界完全同化破壊爆弾改」について

によつてはじめて絵が浮かび上がつて意味を持つ。論理という力になる。複雑な意思を持

れない。一個無機生命体も壊れてしまえば電気部品の塊で

しかない。一つ集まることで大きいなる意思を獲得

ロが何層にも何層に

重なつてマクロを構成するのが

素粒子

小さな宇宙。

本当の姿なのだ。物語だって

小さな宇宙。

の小さな登場人物が

大きな物語を形作

筋書き

即ち大いなる意思

て存在する。多少のアドリブこそあ

い。事

前に敷かれたレールから外れることなく、終着駅へ

二十四人の子羊たちも例外ではない。彼女たちは

短い一幕を演じている。観測されるただその一瞬

放つ恒星。読者であるあなたはスクリーンを隔て

遠く離れた安全な場所から対岸の火事——いや、

一緒にステージに上がって、ホンモノと一緒に

全員が主役だから。花火に熱狂する観客も

ての世界にて完璧な主演として劇を作り出す。

あなたは、点であり、文字であり、細胞であり、電気部品である。素粒子＝花火として宇宙＝花火を

満たす化身である。すべての花火ともつれあ

い同化する道化である。花火によつて演じられ花火を演じる、偉大な主人公である。何も縛られずルールを

破つたり、台本に縛られて予定調和を遂行

したりと、千変万化の顔を見せてくれる優秀な役者さんだ。ところで、「相互保証破滅ボタン」を覚えてる？

あなたと同じ世界の全観客へ宛てた花火の

プレゼントだつたね。あれはすべての観客と演者を重ね合わせて物語に引き込む舞台装置だつたわけだ。何か壊されるとと思つて押さない、あるいは勇気

を出して押すという選択を観客諸君はした。そのボタンが何かを知つた今、あなたはそのボタンを押すだろうか。いや、改めて問うのだからそれではつま

らない。今回のボタンは受動的に与えられるのではなく、観客が自ら探し作り出すことで初めて観客の前に現れるものにした。ボタンはこの文章に隠され

ているから、あなたはボタンを見つけなければならない。もちろん、ボタンを押せば世界を木つ端微塵に破壊する爆弾が起動する。面白いとは思わない？

もしあなたが乗り気なら——賢明な、あるいは愚かなる読者諸君。すべてのピースは揃つた。答えを見つけてごらん。悦しい嬉しい劇はもう開演したよ。